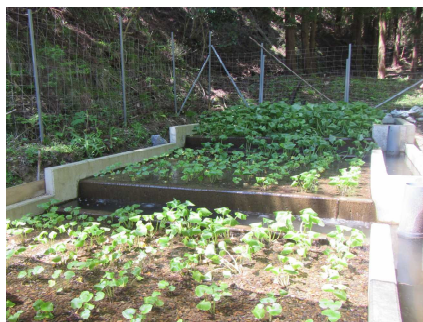


近畿農政局長賞

上宮津地域会議（京都府宮津市）



〈休耕田を利用したホンモロコ養殖〉



〈渓流水を利用した「溪流式わさび田」〉



〈樹木粉碎機による竹チップ化〉

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

上宮津地区は、宮津市の南部に位置する 14 区から構成される人口が約 1,000 人（高齢化率 49.2%）の地区で、若者の大学進学や就職に伴う都市への流出などによる少子高齢化・過疎化が年々加速し、「このままでは地域の活力が弱まり集落機能が失われかねない」との危機感から、地域振興と事業創設を目指して、集落の既存組織を再構築した上宮津地域会議を立ち上げ、「上宮津地区振興計画」の見直しを行い、新たに「上宮津 2022 年ビジョン」を策定し、明確な方向性と体制を整えてむらづくりに取り組んだ。

（２）むらづくりの内容

上宮津地域会議は、上宮津地区の全住民を対象としたアンケート調査を行い、住民の意見を踏まえた「上宮津 2022 年ビジョン」の実現に向け、地域の課題に応じ、テーマを絞った検討を行う部会を設置し、長期的な展望に立ち、地域として今後取り組むべき内容について大枠を定め、それに沿って新たな試みへの挑戦も含め、様々な取組を展開している。

「上宮津 2022 年ビジョン」重点方針の一つである“農林業や観光を中心に自然の恵みが経済の発展につながっていく地域づくり”の重点的な 4 つの取組として、①「モロコ養殖プロジェクト」（休耕田等を活用したホンモロコの養殖実験）、②「わさび栽培研究会」（溪流やトンネルからの湧水を利用したわさび栽培）、③「森林整備プロジェクト」（竹資源等を有効活用する里山の森林整備）、④「移住定住・学校利活用」（地域の空き家対策と閉校した小学校の利活用）があり、各プロジェクトチームを組織し、チームが主体となって先進地視察研修や講習会、勉強会などを開催することにより、実践力を身につけた実行部隊として活動を推進している。

このように、当地域会議が取り組んでいる内容は先進的なものも多く、上宮津の豊富な自然を活かした特産品の事業化による地元の経済発展への挑戦、地域の農林漁業の振興や定住促進への活動など、集落機能の維持、存続に大きく貢献した取組となっている。